



種彦諸國

物語

遠江の巻上



嘉永成書
上梓



13
3760
11



門 13
號 3760
卷 11 庚

戊辰新刊

法 國 物 語

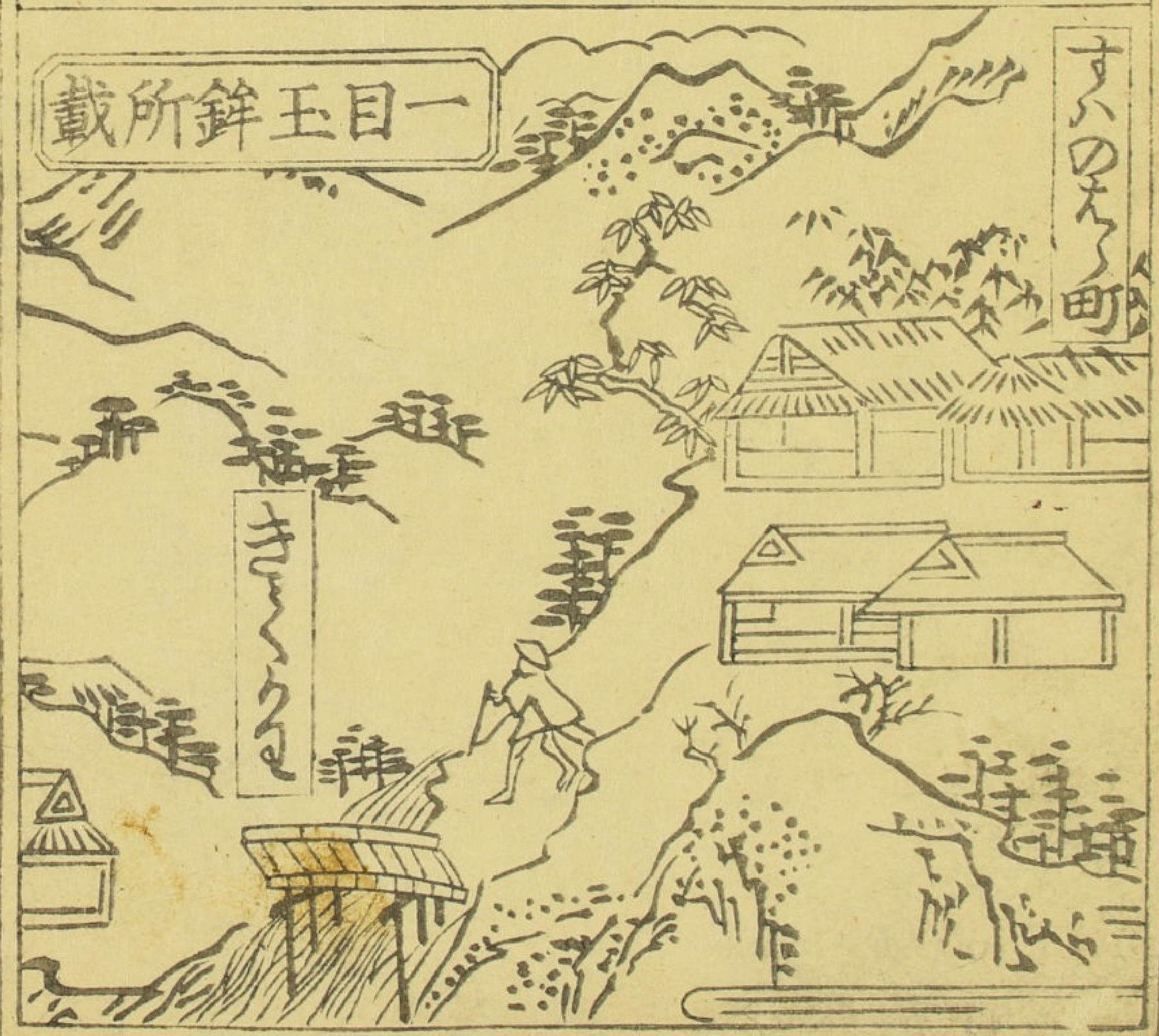
第十一編上

笠亭仙果作

一陽齋豐園画

榮久堂版

一目玉鉞所載



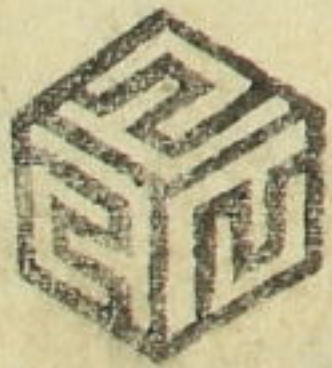
邯鄲諸國物語第十一編序

此遠江卷の原本其積諸國物語第二卷より其ハ甲斐國身延の事と夫
木鈔の哥注ハ風土記と引て甲斐國鶴郡小菊花有山流水菊花と洗ハ其水
飲人の壽ハ鶴の如しと記シカク甲斐茶由縁あれハその事ハカクモ上ハたれハ道
見セ友もありと吾師ハ思フやむハ武田の家的事蹟とハ一生涯茶と執れカカ
其言理れどもハ其見も地方と改つ承久の宗行卿元弘の俊基朝臣忠臣非業の死
亡あり千歳の秋の名を流區菊河ハ復義ハ仗武主の遭刀害物語ハ其のハ
うてハ金英とハ異名と幸とハ薬師の利生とハ雨草の奇特ハ延ハ
慈童が七百歳の枕と推ハ空言八百も小菊の懐中紙ハ丁カカハハハハハ

庚戌初春新刊

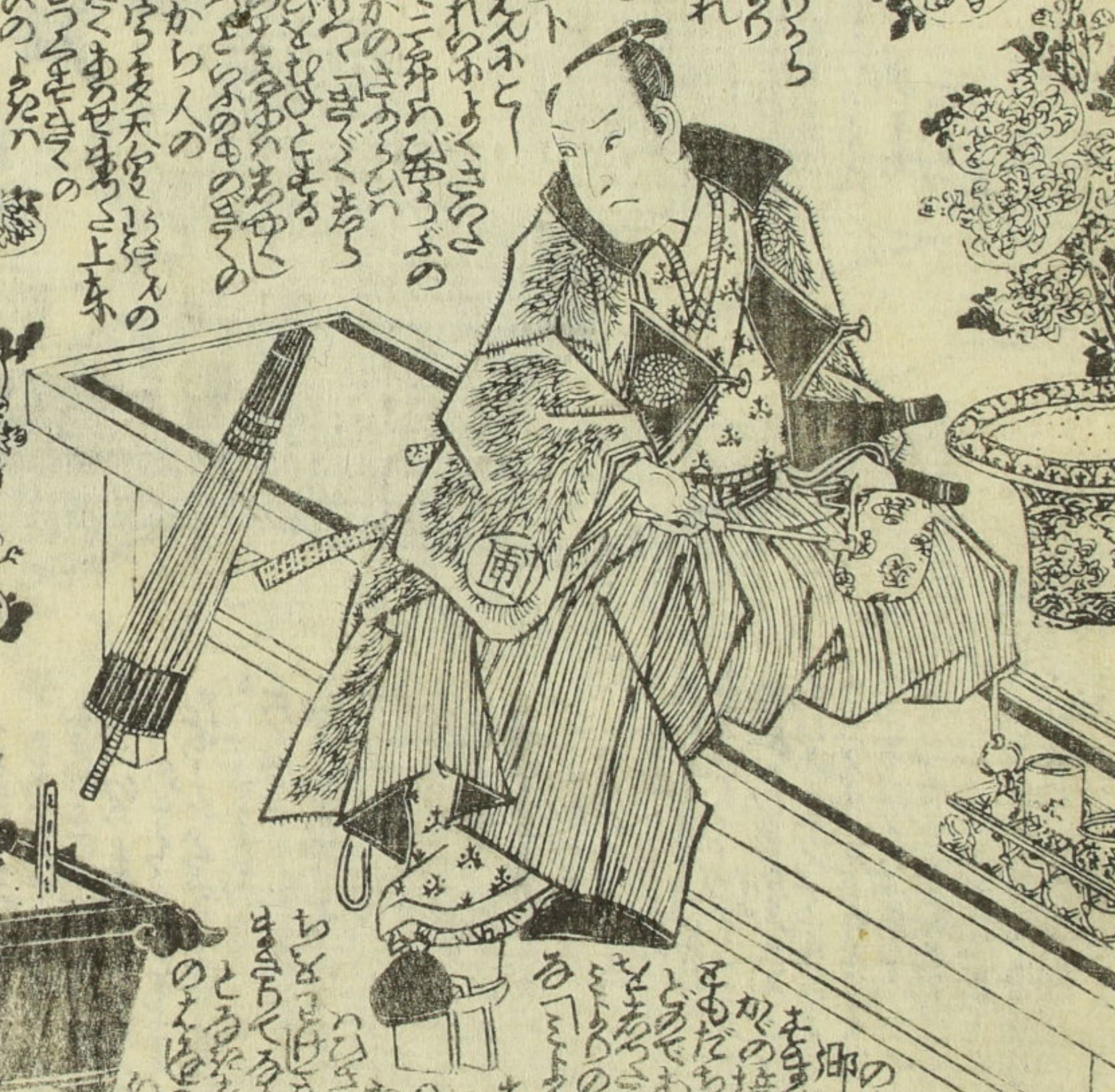
故柳亭門人

笠亭仙果



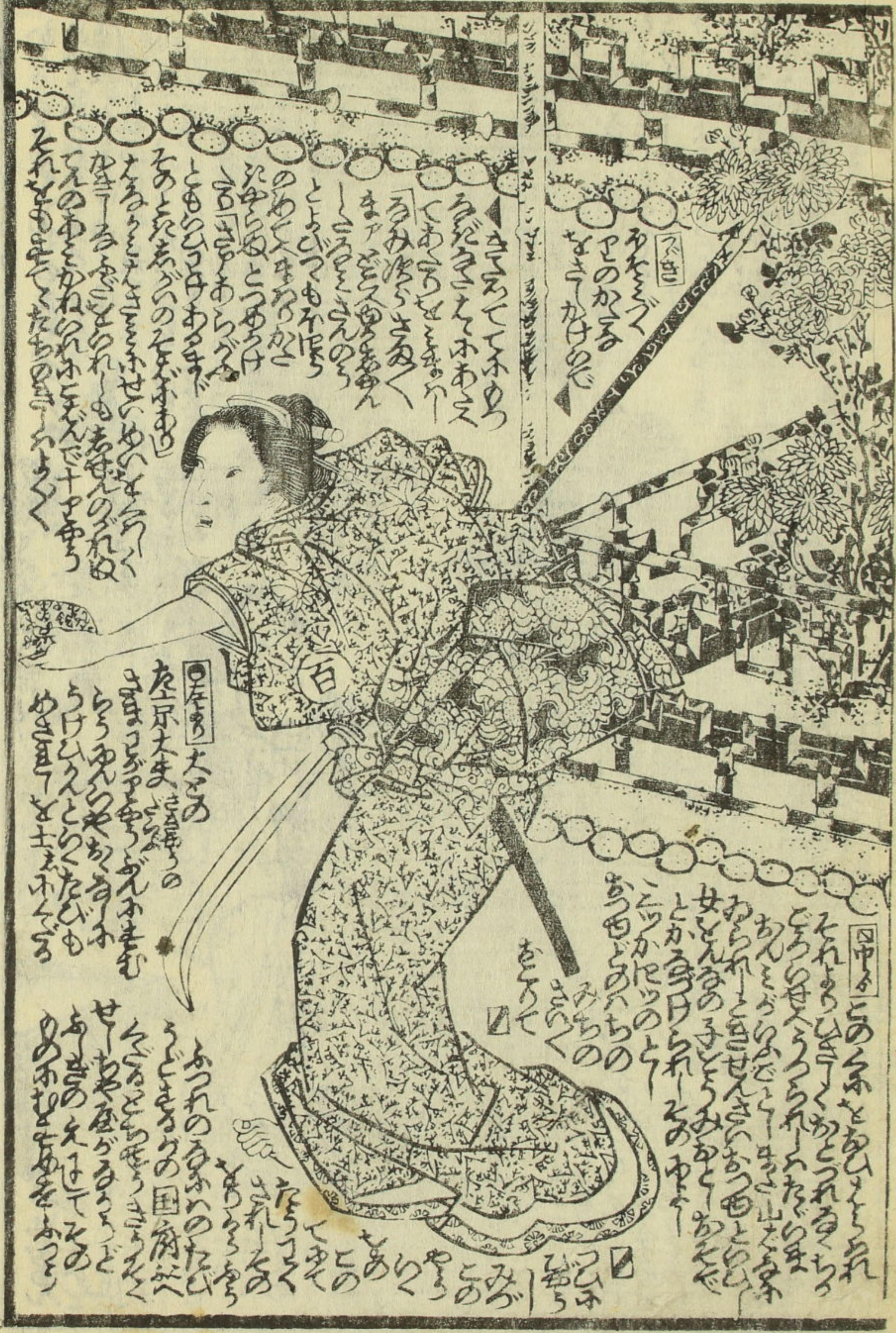


今月... 田中... 今月... 田中... 今月... 田中... 今月... 田中... 今月... 田中...
 (Text continues in vertical columns, describing events and characters)



今月... 田中... 今月... 田中... 今月... 田中... 今月... 田中... 今月... 田中...
 (Text continues in vertical columns, describing events and characters)







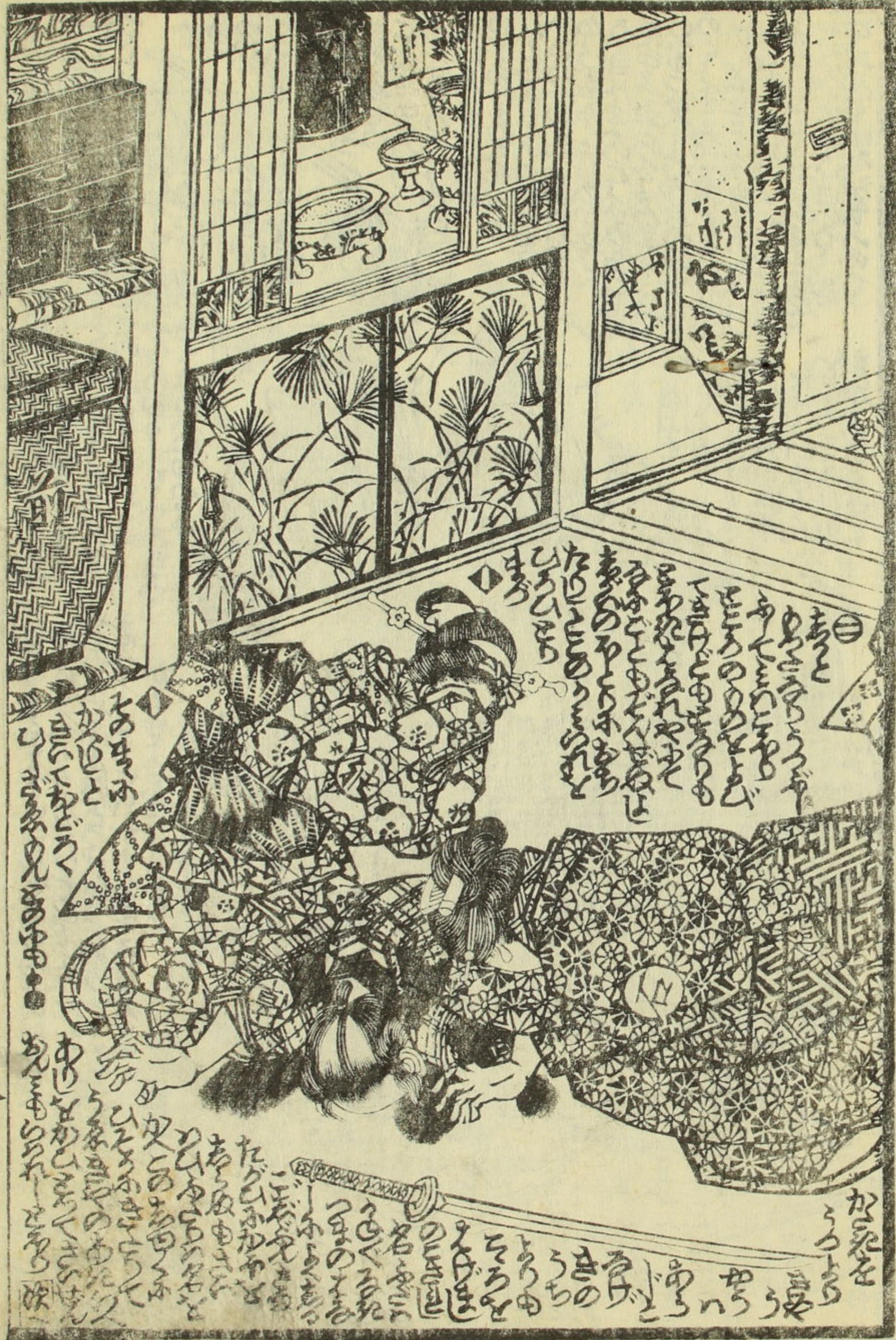
Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or dialogue related to the scene. The text is arranged in several columns, some to the left and some to the right of the central figure. The characters are in a cursive style.



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or dialogue related to the scene. The text is arranged in several columns, some to the left and some to the right of the central figure. The characters are in a cursive style.

Vertical text on the left margin of the left page.

Vertical text on the left margin of the left page.

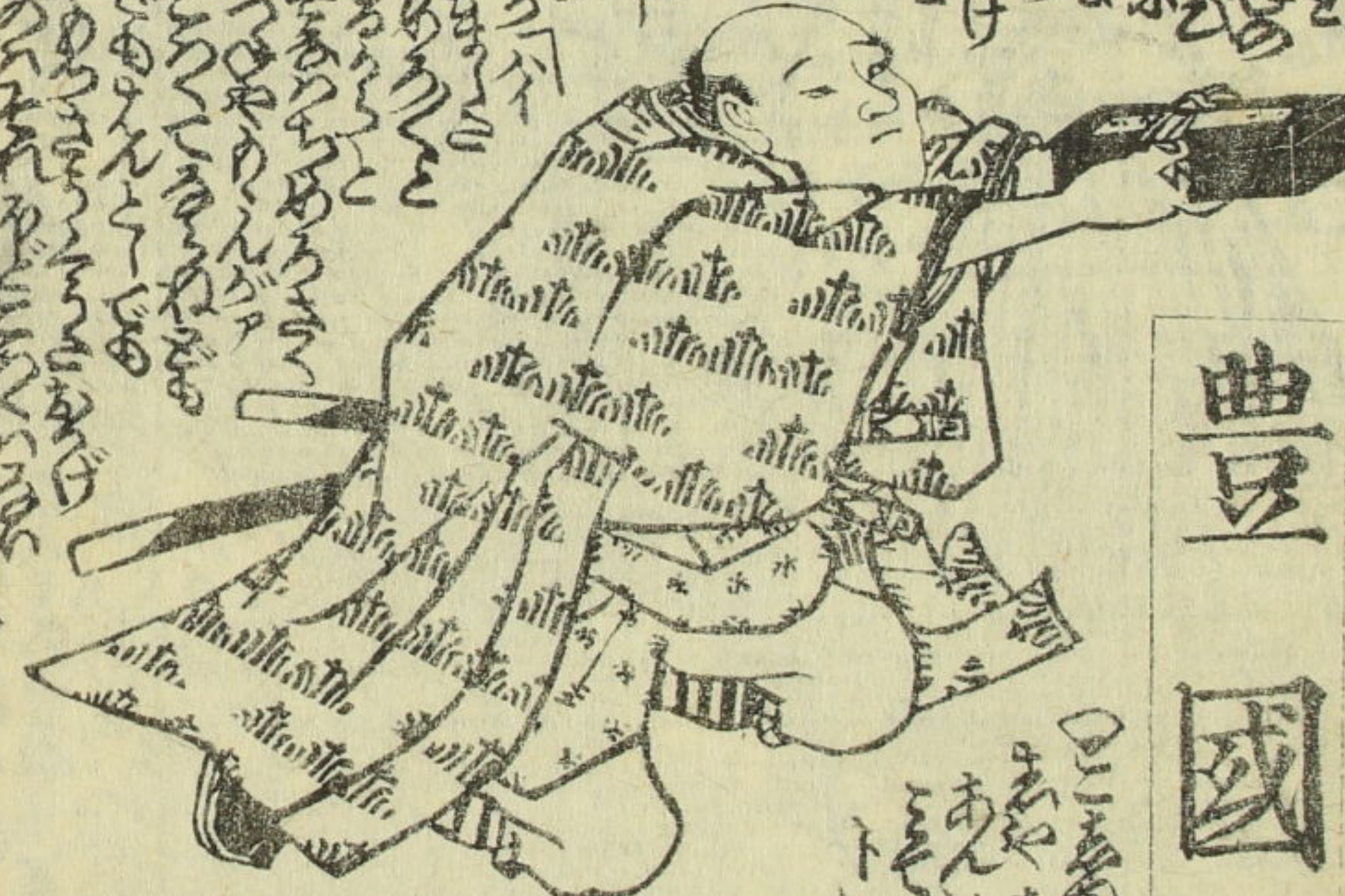






仙果編述
豊國画

仙果編述の巻の序文... 仙果編述の巻の序文... 仙果編述の巻の序文...



海書 金川 谷

嘉永三年 新春刊行 邯鄲諸國物語遠江の巻 故柳亭先生舊案 一陽齋豊國画

邯鄲諸國物語遠江の巻の序文... 邯鄲諸國物語遠江の巻の序文... 邯鄲諸國物語遠江の巻の序文...

伊勢の巻 合本 袋 笠亭仙果

近江の巻 合本 二袋 附出羽の巻

大和の巻 合本 三袋 播磨の巻 合本 三袋

同攝津の巻 前後合本三袋 笠亭仙果作 刻 芳町山本平吉版

種彦詰園物語 巻下



仙果
補綴
豊園画





Vertical text in a cursive font, likely a story or commentary related to the illustration above. It starts with 'たのしみながら...' and continues with several columns of text.

諸國物語十一編

若河宗親父橋角

山本氏藏持

仙果作

豊国画



引つれぬふもやふらん
つれぬもふらん
つれぬもふらん
つれぬもふらん

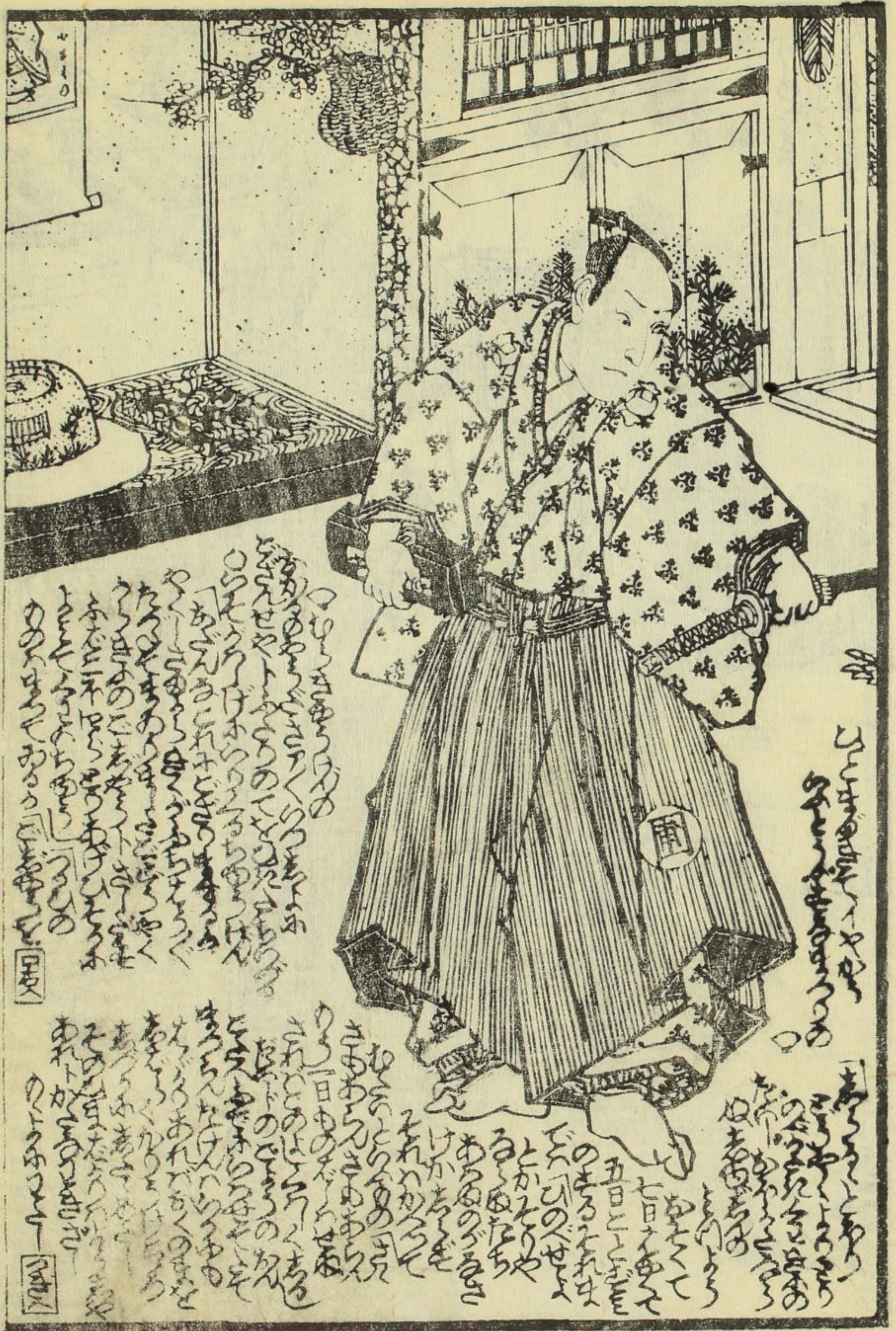
下冊

遠江巻



此の如き事ありしは
 未だかつて無き事
 ありしにや
 此の如き事ありしは
 未だかつて無き事
 ありしにや
 此の如き事ありしは
 未だかつて無き事
 ありしにや

此の如き事ありしは
 未だかつて無き事
 ありしにや
 此の如き事ありしは
 未だかつて無き事
 ありしにや
 此の如き事ありしは
 未だかつて無き事
 ありしにや



此の如き事ありしは
 未だかつて無き事
 ありしにや
 此の如き事ありしは
 未だかつて無き事
 ありしにや
 此の如き事ありしは
 未だかつて無き事
 ありしにや

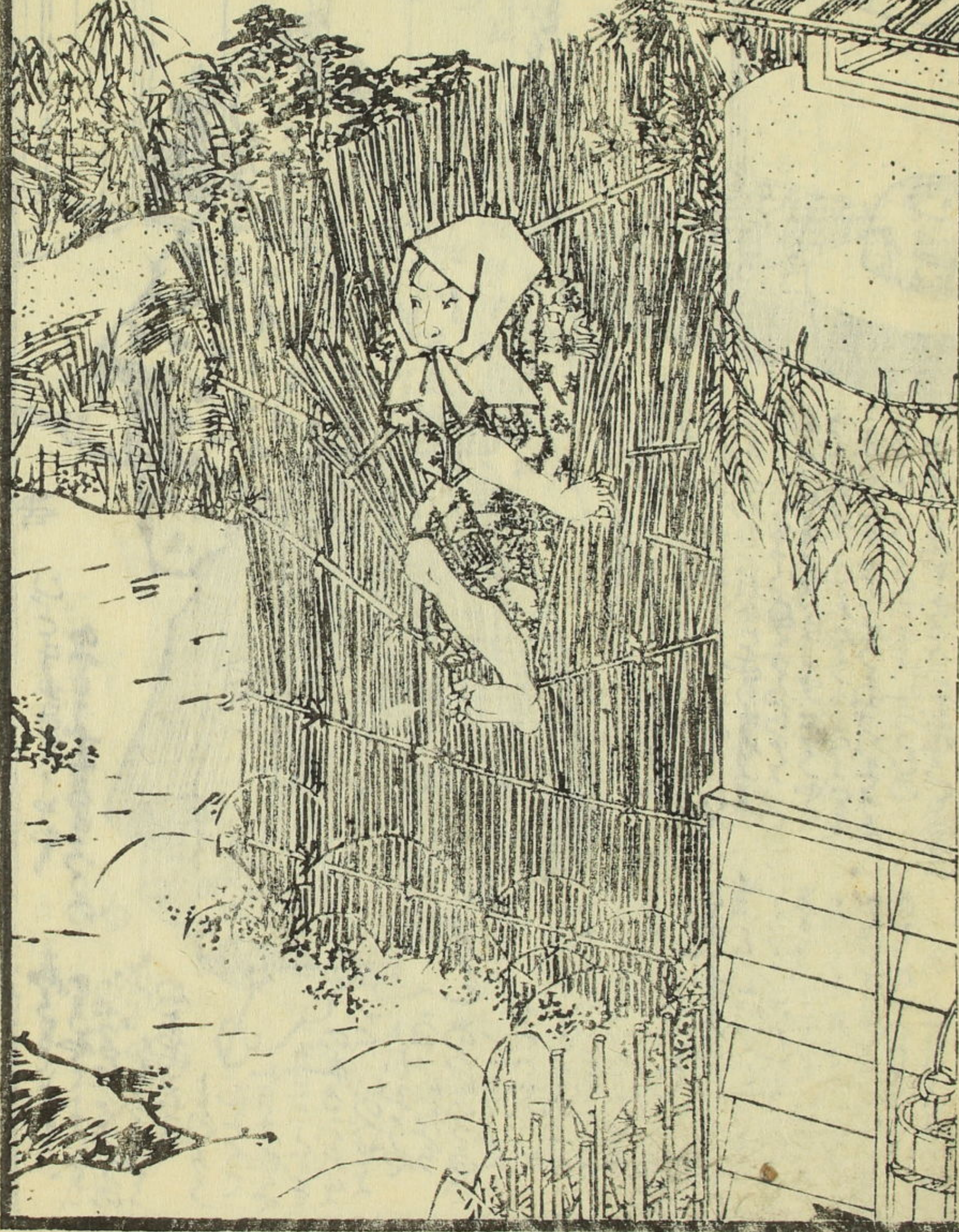
あつちのたま
おひつらるる
かづのまてあ

あつちのたま
おひつらるる
かづのまてあ

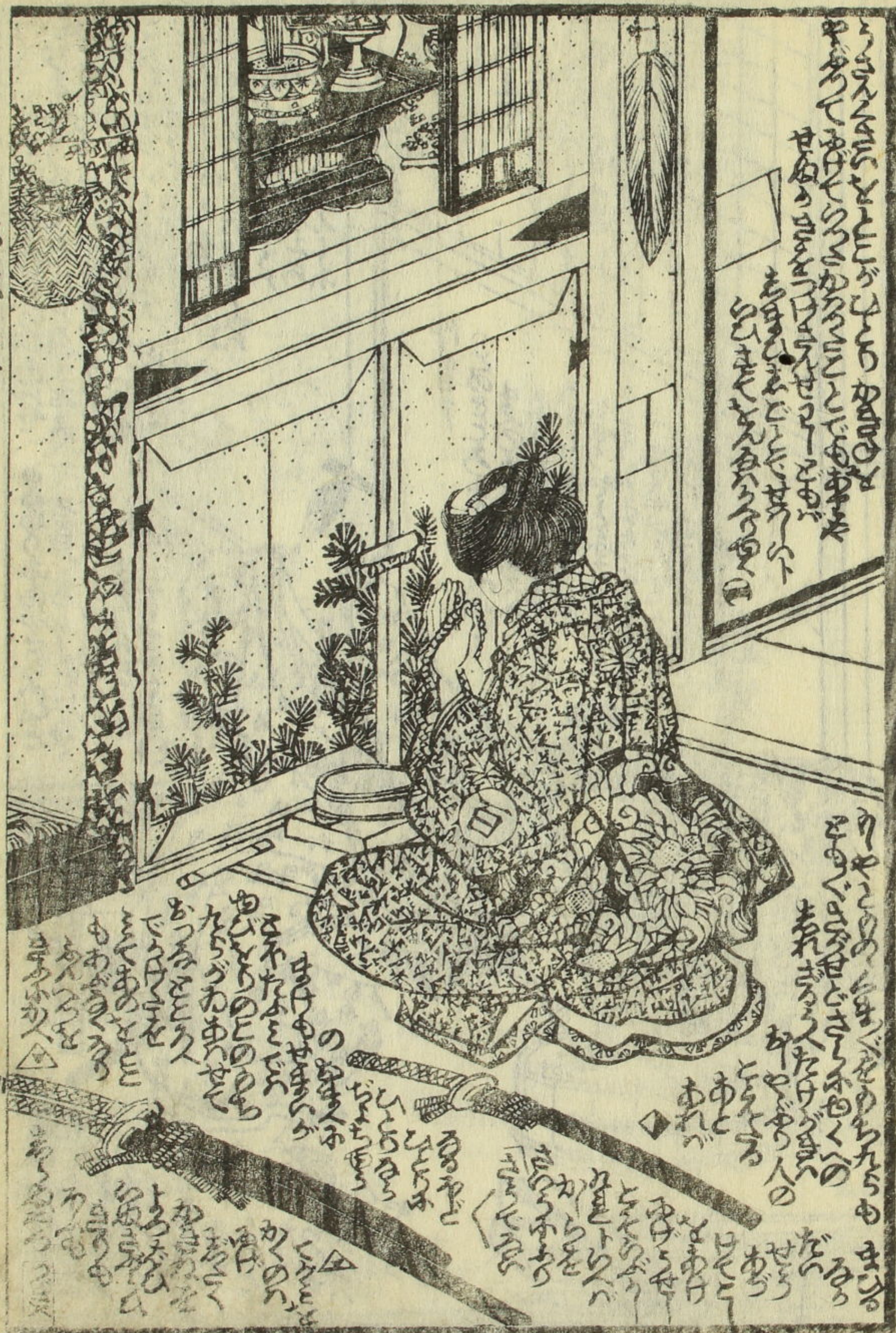


あつちのたま
おひつらるる
かづのまてあ

あつちのたま
おひつらるる
かづのまてあ



甘単十一

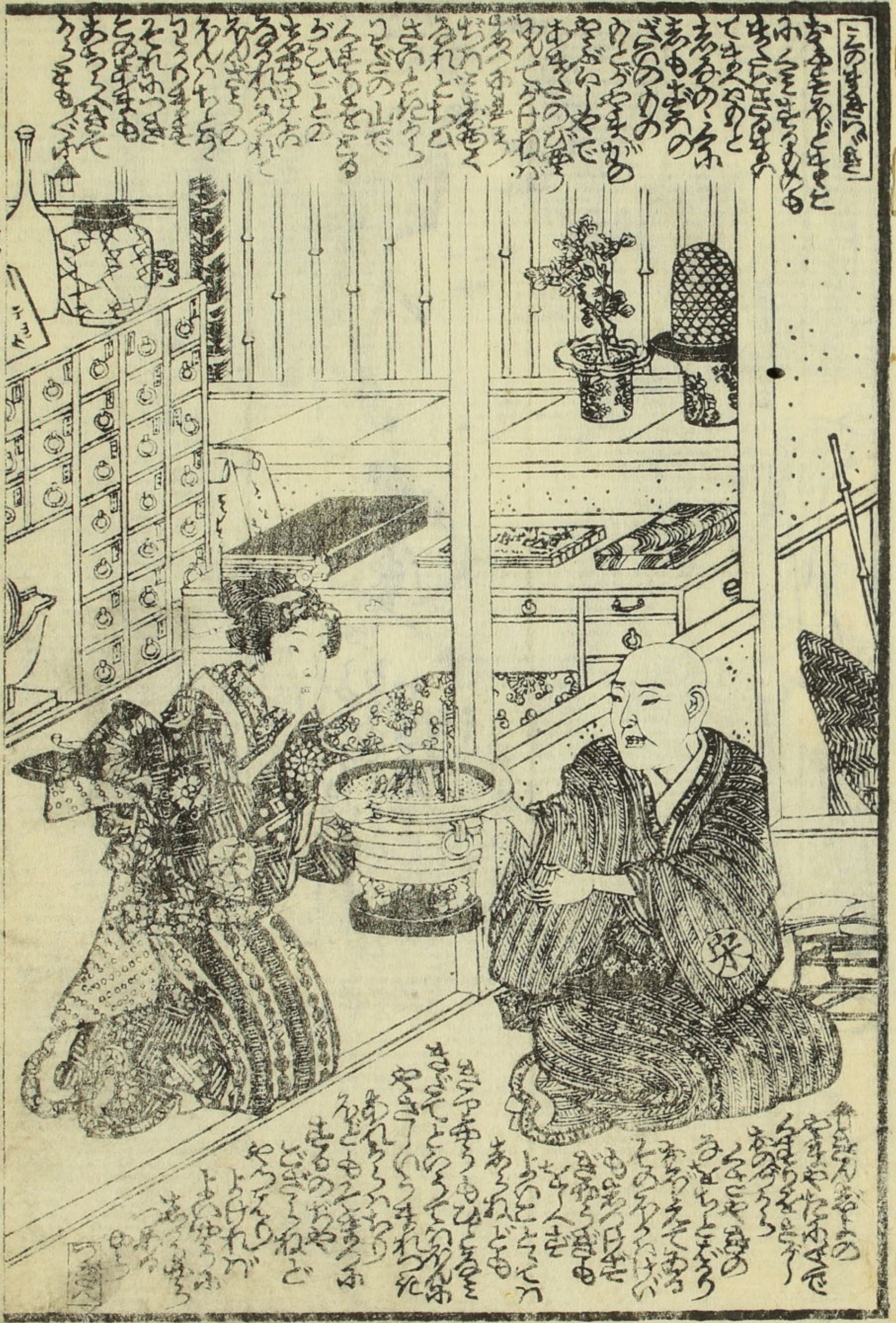


廿二

廿二



廿三



下部 一

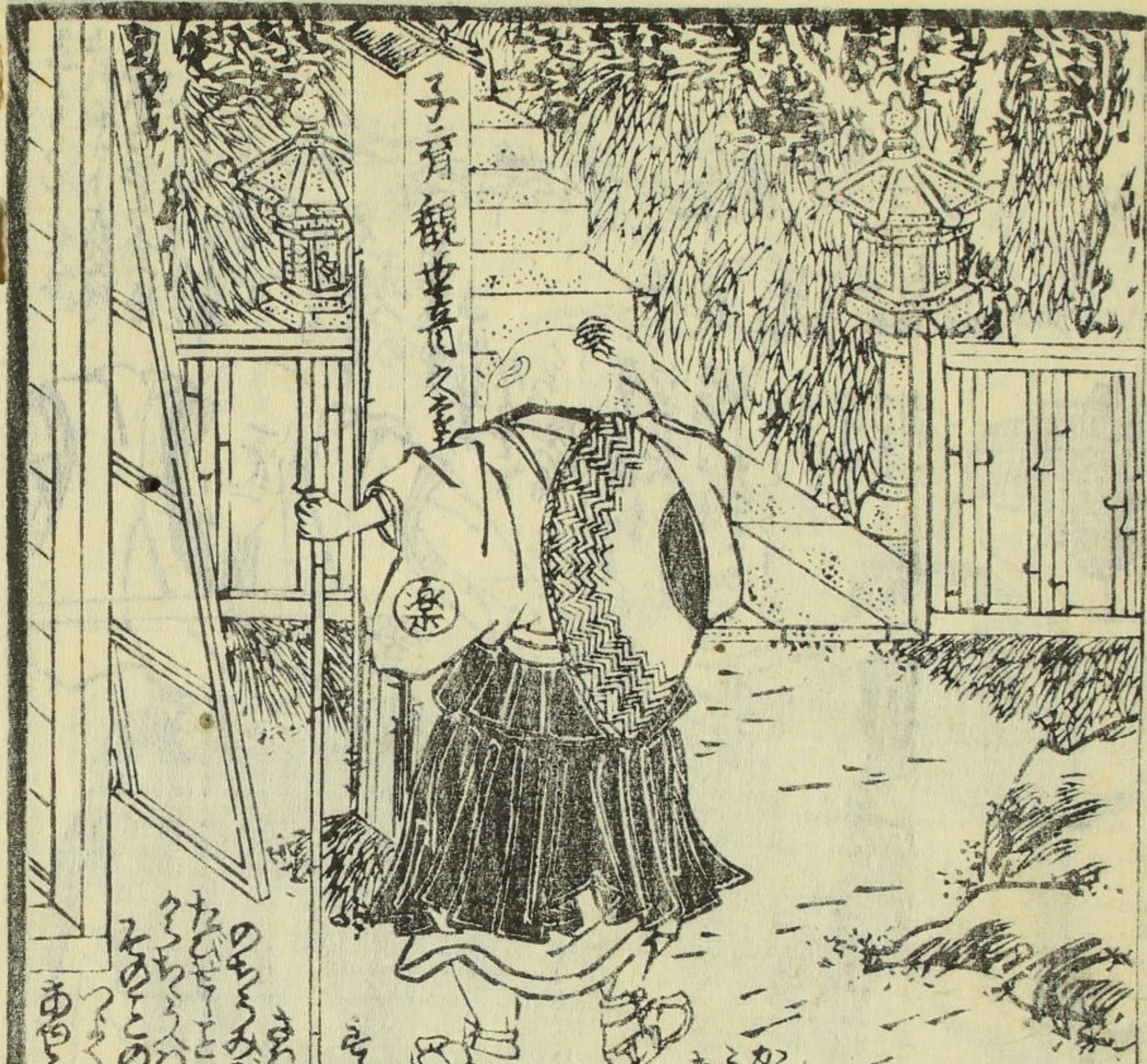
下部 一





この世は日々変わらぬものなりけり
人の心もまた日々変わらぬものなりけり
...
（Additional vertical Japanese text follows in columns, describing the scene or a related narrative.)

十九



子育観世音が
...
（Vertical Japanese text block on the right page, likely a prayer or a description related to the Guanyin statue.)

廿四

